

白井市総合教育会議録

○会議日程

令和7年8月1日（金）

白井市役所東庁舎3階会議室302・303

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 議題 白井市第3次教育大綱（案）について
4. 閉会

○出席委員等

市長	笠井 喜久雄
教育長	井上 功
教育委員	齊藤 豊
教育委員	中里 敏康
教育委員	松田 加奈子
教育委員	久保 利枝

○出席職員

企画政策課長	村越 貴之
企画政策課	齋藤 淳基
教育部長	大高 一穂
教育部参事	山本 高寿
教育総務課長	落合 一矢
生涯学習課長	西口 武雄
文化センター長	高花 宏行

午後2時00分 開 会

○事務局 それでは、定刻となりましたので、ただいまより令和7年度第1回白井市総合教育会議を開催いたします。

本日、議事進行を務めさせていただきます企画政策課の齋藤と申します。よろしくお願いいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題や、あるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的として、市長が設置するものです。

それでは初めに、市長から挨拶をお願いします。

○笠井市長 皆さん、こんにちは。

今日は、雨の中、この総合教育会議に出席いただき、誠にありがとうございます。

また、皆様には、日頃から白井の子どもたちの教育に多方面から御尽力と御努力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

まず初めに、台風の状態を少しお話させていただきたいと思います。台風9号が今日の夜から朝にかけて関東に接近するという情報があります。私が一番心配しているのは、これから梨が、幸水が出荷する時期で、雨等と風が吹いた場合、これに影響あることを非常に懸念しています。

今の状況を見ると、そんなに影響がないのかなということで安心しているのですが、油断ができない状況であります。

そしてもう一つ、8月1日号の広報しろいです。私たちをつなぐ平和の記憶ということで、新しい事業、平和教育が表紙に載せてあります。

私のメッセージは、子どもたちに恒久平和、核兵器根絶というものを引き継いでいただきたい、生で感じていきたいということで、これを記事と、そしてメッセージをつけております。

また、皆様については、4日月曜日から子どもたちと一緒によろしくお願ひしたいと思います。そこで感じたことを教育現場や教育委員会の中で議論をしていただきたいと思います。大切なことは、ああいう戦争で人の命を奪うことは決してあってはいけなし、そういうことを次の世代につなげていきたいと思っておりますので、ぜひ、お願ひいたします。

また、今、第6次総合計画を策定中です。これは、令和8年度から10年間の計画になります。その第一線で頑張っているのが、ここにいる事務局の齋藤をはじめ、村越課長以下、職員全員で10年間の計画をつくっています。皆さん承知のとおり、この10年後の将来像がここにあるのですが、世代を超えた笑顔と豊かさを未来へつなぐまちを今後10年間で、このまちづくりの将来像に取り組んでいくということになります。

そして、6つのまちづくりが、ここに記載があります。一丁目一番地が、若い世代が定住するまちです。何が言いたいかというと、やはり若い世代にこの10年間、引き続いてスポットを当てて、あらゆる支援というか、教育の質の向上というのを進めていきたいと思っております。

私は市長として常々言っているのですが、教育現場の質、レベルを上げることは、政治家の仕事ではないと思っております。これは井上教育長はじめ、皆様、教育委員会、各学校の先生方が、校長先生も含めて頑張ってください、子どもたちの教育レベルを上げていただく。私がしなければいけないのは、その現場の環境づくりをしていかなければいけないと思っております。

そういう意味から、子どもたち、先生が働きやすい、そして、いい環境の中で教育の質の向上を進めていきたいと思っております。この10年間も若い世代が定住するまちということで、子育て支援や教育に力を入れていきたいと思っておりますので、ぜひ忌憚のない御意見等頂いて、子どもたちにとって、また、先生が働きやすいような御提案をぜひお願ひをしたいと思います。

そして、これからも暑くなること皆さん心配していると思います。今までは、普通教室にエアコンを入れました。特別教室にも入れました。まだ入れていないのが、体育館。これについても、次の計画には早急に取り組を進めて指示をしておりますので、この辺も具体的に決まりましたら、皆さんに報告なり説明をさせていただきたいと思います。

今日は、今年に入って第1回目の総合教育会議ということですので、ぜひ皆さんが日頃子どもたちの環境づくりで心配事、こういうふうになれば、もっともっと子どもたちや保護者にとって、また、働く先生にとっていいよということの忌憚のない御意見等を頂きたいと思っております。どうか、これからもよろしくお願ひいたします。

○事務局 ありがとうございました。

では、これより議題に入らせていただきます。

議題、白井市第3次教育大綱（案）について、引き続き笠井市長から御説明をさせていただきます。よろしくお願ひします。

○笠井市長 着座にて説明をさせていただきたいと思ひます。

令和6年12月4日に、前回、第3次教育大綱について、概要を御説明させていただきました。その後、パブリックコメント、そして、国の計画を受けまして、若干改正、見直しを行いましたので、その部分について資料を見ながら説明をさせていただきます。

まずは、改正点というのが二つの大きな観点です。

一つは、この大綱の素案をパブリックコメントを行っております。

二つ目が、パブリックコメントなどを受け、国の計画が変わりましたので、それに伴う変更点について説明をさせていただきます。

まず、パブリックコメントは、令和7年4月29日から令和7年5月19日まで、3週間行いました。結果的には、御意見はありませんでした。電話での問合せが1件あったということだけです。ですから、大綱に対して、そんなに意見がなかったということです。

次に、今回の素案に対しての変更点です。これは、主に国の第4期教育振興基本計画が若干変わってきましたので、それに合わせた部分があります。具体的に言いますと、変更3が主な内容になります。

まず、変更点の1は、表紙のデザインを変えています。後ほど説明します。

変更点2が教育理念。これも若干言葉を足している部分があります。

そして、変更点3が、先ほど言いました国の第4期教育振興基本計画を踏まえて、ちょっと入れ替えたり、言葉尻を直しています。具体的に説明します。

まず、変更点1は、表紙デザインです。今までは、白井市第3次教育大綱には何の絵もありませんでした。寂しいというかシンプルでした。それを今回新たにデザイン、木を中心にしているいろいろなものになっているという、実がなっているイメージにさせていただきました。これは、緑豊かな白井市教育を、そして、木のようにすくすく伸びていただきたいと。そして、この枝になっているいろいろな人が、多様な人が教育を支えるというようなイメージで、このデザインを入れてみました。これが変更点第1です。

次に、変更点第2です。

まず、1点目の変更が、小・中学校の部分がコミュニティ・スクールとしての小・中学校という表現に直してあります。コミュニティ・スクールは、皆さん承知のとおり、こういう制度であります。ですから、小・中学校からコミュニティ・スクールとしての小・中学校に変更が、まず一点です。

変更の2点目が、上にずっと行きますと企業とありますが、企業に民間団体というのを追加しました。この意味は、企業だけではなくて、NPOとか市民活動団体、こういうあらゆる機関もここに加えようと。企業だけではないという、いろいろな市内で活動している、また、市外でもしている人たちにも一緒になってやっていただこうというイメージで、この言葉を追加しています。これが変更点の二つ目です。

変更点の3点目、基本方針です。

まず、方針の1が、言葉を少し直してあります。

そして、変更点の2と3を入れ替えています。この並びでいきますと、方針の2と3が入れ替わっています。これは国の計画を踏まえて、少し変更点を見直しました。

具体的に言いますと、まず、変更点3の基本方針です。今までは「育てます。未来を切り拓き生き抜く力」。これが国と言葉を合わせまして、「持続可能な社会の創り手を育てる」に変更してございます。将来の予想が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となるため、主体性・創造力・問題解決能力・表現力・リーダーシップ・チームワークなどの力を備えた持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てます、に直しました。これは右側にあるのですが、2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成ということで、計画のコンセプト、これを国に合わせてあります。

次の変更点は、2番と3番を国の計画に合わせて入れ替えています。入れ替えた内容は、まず、方針1が、先ほど言いました、直してあるところで、持続可能な社会の創り手を育てます。

方針2が入れ替えた部分です。「市民の生涯の学びをまず応援します。」

方針3に、「教育をみんなで支え合う仕組みを進めます。」ということで直してあります。ですから、まず、人の関係が1、2に来て、そして、みんなで支えるという、環境を述べているというふうに入れ替えています。

これが変更点3が、具体的に言うと、第4期教育振興基本計画のリーフレットから同じような入替えて直しております。

以上が、今回パブリックコメント、そして、国が策定しました第4期教育振興計画も踏まえて、それに整合させて変更したところであります。

以上で説明は終わりますが、これにつきまして、何か御質問、御意見等ございましたら、何でも結構です。これ以外でも、月曜日から行く平和教育の広島について、何かこういうことを学んできたいとか、こういうことを子どもたちに伝えてみたいなど、自由に何かありましたら、よろしく願います。

まず、齊藤さんから願います。

○齊藤委員 やっぱり気になるのは、基本理念のコミュニティ・スクールのところですね。去年から桜台小中学校が始まり、今年4月からは、市内全部の学校でコミュニティ・スクールが始まったというところで、新しい取組というところですので、地域も、市長がふだんからおっしゃってる地域と公助、共助、自助というところでの共助ですね。学校と協力して、地域の人も子どもたちを育てていくんだという、そういう理念だとは思いますが、そうは言っても、まだまだ手探りの状況で、人もなかなか集まっていないところもあるので、そこを、既に全国で展開されている地域の情報とかを入れて、よりいいものをつくっていただければと思います。

あとは、月曜日から行く広島への平和使節団、子どもだけではなくて、私自身も本当に学びたいなと思っておりますので、その辺は、また後日、報告していきたいと思っております。

以上です。

○笠井市長 ありがとうございます。

コミュニティ・スクールの目的とか方向性については、後ほど教育長の思いもあると思うので、私はどちらかというと、市長の立場で、このコミュニティ・スクールに対しての期待ということをお話しさせていただきます。

池田小学校事件があって、学校の安全をどう守っていくのだということ、なかなか安全面を重視して地域に開かれてこなかったという経緯は、自分の中で理解しているのです。確かに学校現場で子どもたちをいろいろな事件から守るためには、閉鎖しなくてはいけない部分はあると思うのです。それがだんだん変わってきまして、開かれた学校として、地域が子どもたちを育てる。安全面もそうです。子どもたちの安全面を地域が担っていくと、こういうような発想に私は変わってきたのだと思っています。

私の目指すまちづくり、地域づくりというのは、地域で子どもたちや障がい者や高齢者を支えていくという、こういうような考えを持っていますので、このコミュニティ・スクールには、もう一度子どもたちを家庭だけではなくて地域全体で支えていく、こういうような事業として期待をしているところでもあります。恐らく教育委員会もそういう部分で、地域のいろいろな人たちに関わってもらって、子どもたちの安全面、そして育成、いろいろな面でサポートをしていただいて、学校もその中で情報交換、意見交換しながら一緒に取り組んでいきたいという思いがあると思います。これは、自分は市長として、そういうふうと考えているところでもあります。

教育長からはありますか。

○井上教育長 二つあります。一つは、昨年度、桜台小・中学校がコミュニティ・スクールを行って、いろいろなところで分からないことがたくさんあり、模索しながらやっていただいたのですが、どうしたらいいか、もっとこうやれば人が集まるかとか、いろいろな悩みを抱えながらやっていったようです。

ただ、結果としては、今までよりも確実に地域を巻き込んだ学校展開というのを、例えば、いつでも授業参観、誰がいつでも見に来てもいいよとか、地域の人と児童、小学生がいろいろな遊び体験などいろいろなことをやっているの、間違いなく今まで以上は、地域とのつながりが増えたということで、コミュニティ・スクールの方向は出ていると感じています。

ただ、桜台小・中学校で気になっているのは、ちょっとコミュニティ・スクールから外れますが、私も桜台中学校にいました、あの学校ができたときは、あえて校門、門を作らない、門扉を作らない。それから、あえて小学校と中学校の間の道路を町道というか、一般の道路として人が通行できるように、市民とか近所の人自由に入出できる学校をつくらうというコンセプトでつくったので、例えば印西の滝野小中学校とか、いには野も門を作らない、あの頃は、そういうのがコンセプトで、はやったのです。

今は、先ほど市長さんがおっしゃったように、どちらが先だったか、多分、池田小の後だと思えますが、あの事件があってから、やっぱり門は必要だねとか、学校は必ず施錠しなきゃいけないとか、開くことと閉ざすことが入り交じってきてしまっている。だから、学校にはいろいろな人が入ってきてほしいけど、いろいろな人が入ってきては困るみたいな、難しい今、局面にはなっているので、桜台小・中学校からは、門をつけてほしいという要望が来ていると思います。だから、時代によっていろいろなことが変わっていくなというのを感じているところです。

○笠井市長 こういう形式で自由に、どうしたらいろいろな課題なりを少しでも、一歩でも、半歩でも進めばいいかということで、意見、議論をしたいと思います。

続いて、松田さん。

○松田委員 まず、天気、台風が来て、今日のお祭りとお明日のお祭りが中止になってしまったのがす

ごく残念です。子どもたちもすごい楽しみにしていて、我が家はお祭り一家で、主人も子どもも太鼓をたたくので、貴重なステージがなくなって残念です。なかなか地域でお祭りをやっている、例えばまちづくり協議会や、中里委員もコミュニティ・スクールのお話ししていたコミュニティ・スクールとまちづくり協議会の関係性とか、ちょっと大綱と離れてますが、担い手といいますか、そこで活動する方は高齢化というのもあって、世代交代がなかなかうまくいっていないこともあり、多分、今回お祭りの中止の判断とかも、富士の場合は、安全なところで子どもたちとかを楽しませる、やりたい、やろうぜという勢いよりかは、何かあったら大変だなとか、安全面を第一に考えた上で、本当に苦渋の決断で中止になってしまったと思うのです。そこで若い世代が関わると、もうちょっと違う結果が出たんじゃないのかなとか、すごいいろいろ考えさせられるところが今回ありました。

富士地区は、特にイベントも多く、本当に夏祭り、こいのぼり祭り、大変ですけども、頑張ってやっているのです。私もやっていて、もやもやするところはあるんですが、もっともっといろいろ、例えば、関わるボランティアの人を募集するには、例えば、広報をもっとしたらいいとか、もっとやっている活動を見える化したらいいなと、きっと中には、地域の方、お手伝いしたいと思っている方はいるのに、なかなかそこがうまくマッチングできていないのがすごく残念だなと思っています。

今回、大綱を今スライドで見たときに、変更点1のところ、表紙のデザインを見たときにモノクロだったので、イラストも入ってすごくいいなと、すてきなイラストだなと思いました。スクリーンで見たときに、すてきなグリーン、ちょっと渋い目のグリーンの色がついていて、本当に緑豊かな白井の教育を木で表現しているというのは、すごくイラストが入っていいなと感じました。

あとは、基本方針の特に一番最初の方針1のところ、以前と比べて、主体性・創造力・問題解決能力・表現力・リーダーシップと、キーワードキーワードで、一言一言とても分かりやすく簡潔にまとまっていてすごく分かりやすい感じました。

あと、来週の広島へは、私は初めてで、行ったことがないので、80年という節目の年に行ける、そういう機会を頂きすごくありがたいなと思っています。広報を見たときに、市内の人も注目していると思うので、そこに行くのは、本当にすごい役目を頂いたなと身の引き締まる思いであります。ありがとうございます。

○笠井市長 ありがとうございます。

まず、地域の自分の感想。お祭りは、やっぱり大事だと思っているのです。それに向かって交流もできるし、いろいろな人の活動も見える。特に富士は、四季折々の催事があったり、イベントがあるので、いいところだなと。ただ、今おっしゃったように、役員さんの高齢化、成り手がなかなかいないというのが現実です。そこは、どこの組織も同じですから、運営のやり方を例えば情報を伝えるアプリを使ったり、スマホを使ったり、簡素化していく。そして、伝える方法も、随時スマホ同士でネットワークができてきて、何か困ったときに、今日お手伝いできますかとか、こういうような地域のDXというものもどんどん活用していかなければ、なかなか広がっていかないのだろうと思っています。ですから、今、DXを進めているわけですけども、地域にもこういうDXを進めながら、業務の効率化というか、イベントの効率化、つながる仕組みというのをも広めていきたいなというふうに思っています。

2点目の今回、第3次教育大綱の中に、今お話があったように、今回、表紙の木は、井上教育長をはじめ、事務局の齋藤さんたちも恐らくそういうような意見を踏まえてのことだと思います。私も絵

があったときに、子どもたちに見せるためには、こういうイメージは大事だろうなと思います。中身についても、全くおっしゃるとおりで、国が示す方向を分かりやすくコンパクトにまとめてあると思っています。貴重な意見ありがとうございました。

そして、最後、広島ですよ。実は、私も3年ぐらい前に広島の平和会議というのがあって、各平和会議に全国の首長さんたちが加盟しているのですが、私も千葉県で唯一行かせてもらい改めて原爆の怖さというのを知りました。今まで楽しく遊んでいたのに、たった1発で、一瞬で周りの人たちがどんどん苦しんでいって、川に飛び込んでいくという、ほんの一瞬ですよ。その怖さというものを初めて聞いて、また、平和公園に行って、目で見て、これはやっぱり子どもたちに伝えていかなければいけないのだなという、要するに、Y o u T u b e やいろいろなテレビでやっているだけじゃなくて、実際、自分たちで肌で感じてもらう必要があるなということで、教育長に相談をして、教育委員会がこの事業を取り組んでいただいたところであります。

平和のために、アオギリの木を二つもらってきました。今、市役所に1本と白井中学校に1本植えてあります。これがどんどん成長するに当たって、そういう思いがまた皆さんとか自分にも伝わっていければいいなと思っています。

今の世界情勢を見ると、非常に、時のリーダーが自国主義でいろいろなことをやっていて、不安を感じています。ですから、これは長い、そういう思いを子どもたちに伝えていって、いつまでも、自分だけじゃなくて、いろいろな人がこの地球に関わっていて、人をあやめてはいけないということを伝えていきたいと思っています。ぜひ教育委員会の皆さんも行って、そしてまた、新たにこういうものを伝えるためには、どのような方法がよいか、仕組みがよいかを提案をしていただきたいと思います。ありがとうございます。

久保さん、お願いします。

○久保委員 市長と教育長のお話を聞きながら、自分でも思ったことがいろいろあります。先ほどの池田小の事件のときに、私はその当時、小学校で教員をしまして、本当にあの事件を受けて学校が変わったなと思いました。

当時、勤めていた学校も、門はいつも開かれていて、1面は塀がなくて、どうぞ地域の方通ってくださいといって、子どもたちも隣の公園に出ていったり、隣の図書館に行ったりとか、そういうことを割と自由にしていたので、それが普通だと思っていたのが、あの事件を受けて、どうやって子どもを守ろうかということに必死になって考えて、やっぱり地域の人を入れないという形に落ち着いてきてしまったのかなと感じました。

もう一つ、転換期だったなと思うのは、東日本の震災のとき、当時私は仕事を辞めて家庭にいたのですが、感想は、地域に大人がいなかったです。子どもたちは学校にいて、地域にはお年寄りがいて、地震が落ち着いて家に帰ってきた子どもたちが、自分の家の人が帰ってきていないから、どうしようということで、私の地域は、自治会の人が集会所を開けて、お父さんお母さんが帰ってきていない人は、ここで過ごしなさいという形で集会所を開けて、保護者が帰ってくるのを待っていたおうちもありました。自分の家で待つのが心配だったので、集会所に来ましたというお年寄りがいたり、ちょっと不安なことがあると、集会所に行つてということがありました。

そのときにすごく感じたのは、やっぱり今、共働きで、白井は特に都内に仕事に出かける人も多いので、子どもを守る、安全を確保するというのは、保護者だけではなく、地域を頼るところが大きい

などということを感じました。

ですから、コミュニティ・スクールも何かあったときに地域が子どもと関わるというのは、すごく大事だけれども、急だと難しいと思うのです。日頃から、地域と学校とか、地域と子どもたちがつながっていてこそ、非常時の関係がうまくいくと思うので、最初、始まりは難しいと思います。コミュニティ・スクールの挑戦というのは、すごく時間かかるとは思いますが、絶対にいい結果が出ると思いますので、続けてほしいなと感じています。

あと、今回の教育大綱の変更点ですけれども、すごくいいなと思ったのは、方針1で「持続可能な社会の創り手を育てます」というところで、やっぱりこれがあることで、教育というのが、子どもがいる人、子育て中の人だけに関わるんじゃないんだよと、教育を受ける人だけのものじゃなくて、社会のつくり手を育てるのが教育なんだよ、みんなのため、自分のためのものなんだよというのが、市全体、皆さんに伝わるといいなと思います。

今、子どもでも、10年先には、その子たちが社会を担う存在になる、中心になっていく存在になっていくはずですので、その子たちをみんなで大事に育てる。一旦子どもは白井を出たくなると思うのです。ただ、結婚して家庭を持つとなったときに、やっぱり白井がよかった、帰りたい、あそこで子育てしたいなと思えるような、そういう記憶とか環境が白井にあったらいいなと思います。これからしようとしていることが、一部の人のためのものではなくて、市民全体のものとして、皆さんの自分事として受け入れていただけたらいいなと思いました。

広島も、私はちょっと心配でもあったのですけれども、先日の結団式に参加させていただいて、この子どもたちはすごいなと、立派だなと。大きなものをお土産として帰ってきて、それぞれの学校とか家庭に伝えられるんじゃないかなと感じました。多分、学校とかテレビとか新聞とか、いろいろなところで戦争のこととか原爆のことを知っている子どもたちですけれども、やっぱり知っていることと、行って理解することは違うと思うので、子どもたちの変化を近くで見せていただけるというのは、すごく楽しみです。これからもいろいろよろしくお願いします。

○笠井市長 ありがとうございます。

まず、広島から。自分も式に参加したのですけれども、子どもたちの挨拶すごかったですよね。大人よりもうまくて、非常にしっかりしているなと感じました。ですから、ああいう子どもたちに生で感じていただいて伝えていただきたいなというふうに、その環境をつくるのが、私は大人の責任だと思っていますので、ぜひ、この事業を通して、多くの人たちに当時の歴史感、そして、これからの未来について、新しく学んでいただきたいなと思っています。

二つ目の東日本、2011年ですよ。今から14年前、確におっしゃるとおりで、もし昼間大きな災害が起きたときには、子どもたち行く場所がないですよ。まずは、大きな地震があったときは、学校現場で少し預かるとは思うのですが、その後、東京に行っている人たちが帰ってこれないことも想定しながら、避難所運営とか帰宅困難者の対策もしていかなければならないと思っています。

でも、一番大事なことは、常に地域で子どもたちが活動していることに関心を持つ大人、そういうものを増やしていきたいなと思っています。一つは、青少年相談員の活動もいい活動ですよ。合宿をやって、隣近所にお風呂を借りに行ったり、こういう事業というのは継続しなくてはいけないし、さらには、自治会活動だったり、まちづくり協議会の活動だったり、そういうところを活性化をして、どこに子どもがいて、何人いるんだという、そういうような見える化ということも、やっぱり大事に

なっています。高齢者だけの見守りではなくて、子どもの見守りというの、やっていきたいなとは思っています。ですから、子どもというのは家庭の宝だけじゃなくて、地域や国の宝なのです。子どもたちが将来の日本、将来の白井を支えますので、そういう取組はやっていきたいなと思っています。

ちなみに今年、去年、子どもたちの未来のワークショップをやって、いろいろな意見が出て、早速一つ取り入れたのが前回も言ったのですが、バスケットゴール。白井総合公園に今、設置する準備をしています。それと、それぞれの公園の遊具を整備、取り替えするときには、子どもたちにアンケートをやりながら、何がいいか選んでもらう。ですから、子どもたちにも、まちづくりや地域づくりに少しでも参加していただく、こういう環境を通しながら広く地域に知っていただいて、また、このまちで言ったことが、大人になって一回、進学とか就職とか結婚で離れても、また帰ってくるような長い政策というの、考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

中里委員お願いいたします。

○中里委員 今回の基本理念の中で、1点皆さんと違う角度で見させていただいたのが、企業、民間団体の導入ですけれども、先ほどから皆さんの中で、コミュニティ・スクールとか祭り、行事、地域で子どもを見守るという中で共通しているのが、白井は人がいない、特に若い人がいないので、その辺を市で、もっと魅力ある企業の参入ないし誘致等をしていただければ、例えば、お母さんたち、パート、今、新鎌ヶ谷とか印西にみんな行っていますけれども、市内でできるとか、お父さんたちも、それぞれいろいろな分野の仕事で、白井でやっていくことができるのかなと思いました。

私は、三、四回ぐらい広島へ行っていますが、最後行ったのがもう十何年前ですけれども、自分自身で原爆ドームとかいろいろのを見て、すごい怖いな、悲惨だなという記憶が今、すごい薄れてきています。テレビとかで、この時期になると報道したり、いろいろやっていますけれども、やっぱり一回見て、それがずっと記憶に残るというイメージは難しいので、中学生たち今回行って怖いかもしれないけれど、その後、大人になって、子どもができて旅行に行く、行き先の一つに入れてもらって、一生に1回ではなく、2回、3回見て、それを継続して皆さんが伝えていってくれば、もっと若い人たちも、年重ねてから変なことを言うような大人にならないのかなと思いました。

以上です。

○笠井市長 ありがとうございます。

広島も、全く自分も同じで、この時期になると、いろいろなテレビで当時の戦争の感じとか、ドラマでもやるのですけれども、やっぱり画面上で見ても分からない部分は非常にあると思うので、実際に行って、自分で感じたことを同世代に伝える。そして、思ってもらおうということで、実際現場に行く取組を行っています。

二つ目、全くそのとおりで、若い人を呼ぶためには、まず働く場をつくってあげることが私は一番大事だと思っています。特にこの白井というのは、東京方面とかに行く人が4割ぐらいいますので、もっと身近な場所で、給料もそれなりにもらっていて、名前のある企業に働きたい、または、女性でもパートというか、2時間でも3時間でも仕事してみたいという、こういう人たちの受け皿を用意する必要があると思っています。隣の印西市を見ていると、物流があったり、サービス業があって、働く場がたくさんある。それも若い人の定住促進をつなげている要因でもあると思っています。白井も企業誘致を一生懸命進めているのですが、どうしてもデータセンターだけが今目についています。それ以外の企業誘致も進めていまして、白井が企業誘致を進めるに当たって、企業誘致の基本方針をつ

くりました。

一つは、ITとかそういう関係の企業を誘致しよう。

二つ目は、物流関係を誘致しましょう。

三つ目には、集客施設、いろいろな人が集まるような施設も誘致したい。

最後、四つ目に農業関係です。大規模な農業施設、6次産業ですけれども、あとは農業、大型化でつくっていくという、四つの基本方針の下に、今、企業誘致を進めています。今、どちらかいうとクローズアップされているのは、電算とかITだけですよね。そのほかにも話を今、進めています。

ですから、私の中では、少し時間が2時間3時間あると。ここで何か少し行ってみたい、近くのところで、それなりの賃金をもらって働きたいと、こういうことも企業誘致で進めていきたいし、また、仕事を通していろいろな人と交流ができる、こういう環境づくりも進めているところです。

いろいろやっているのですけれども、見通しは明るいです。というのは、このエリアは、自分で企業誘致を進めていて、企業の人と話をするのですが、非常にいいと。何がいいですかというと、やっぱり都心から近くて災害がない、大きな河川もない。そして、電力も豊富にある、国道も二つある、非常にいい立地条件にあるのです。

ただ、もう市街化区域がないので、市街化調整区域という問題がありますけれども、そういう問題をクリアすれば、このまちの価値、まちの魅力がありますので、そういう働く場というのを確保していきたい。これは、長いスパンで、周りの人たちにも理解をしてもらわなくてはいけないのですけれども、そういうまちづくりをすれば、持続可能な発展するまちができると思っています。ありがとうございます。

○事務局 よろしいでしょうか。以上で意見交換を終了いたします。

本日の議題「白井市第3次教育大綱（案）」につきましては、本日の会議を踏まえて大綱自体を策定し、これを基に、次は、教育振興基本計画の策定を進めてまいります。

それでは、以上をもちまして令和7年度第1回総合教育会議を終了いたします。

本日は、お疲れさまでした。

午後2時44分閉会